

総合案内

全日制

生徒会

定時制

掲示板

iモード

メール



祝 吹奏楽部インターハイ出場



since 2000/2/8

●児玉高校ホームページ●

<http://www.ksky.ne.jp/~kiji/index.html>

皆さんもご承知のように、八十周年をまもなく迎える歴史のなかで、私達の母校は創立以来、数多の有為の人材を育成してきました。今、国内外にわたってインターネットの利用者が飛躍的に増大し、パソコンを利用して

様々な情報が家庭などでも得られるようになりました。新世紀、青空に高くそびゆる白亜の森我が母校、児玉高校も変化の時を迎えています。今回、ここにご紹介する児玉高校インターネットホームページもその一つです。母校児玉高校のホームページを同窓会会員の皆さんにご紹介したいと思います。ホームページにアクセスすると、遠く赤城山秩父連山吹きおろす嵐のなみに森影の花すこやかにその生命燃えて、落ち着いた静かな環境のもとで今日も勉学、部活動に励む生徒達のいきいきとした声がキャンパスにこだましてるのが聞こえてくるようです。学校生活から部活動、進路状況、生徒会活動、文化祭、運動会、課外授業等々をはじめこのホームページにアクセスしていただければ児玉高校の現況を知

つていただけることと思います。

また、ホームページ内の電子掲示板への投稿、閲覧をはじめ、携帯電話によるiモード掲示板も開設されていますので、投稿や閲覧等もごく簡単に利用できます。皆さんの声を、激励を母校に届けてほしいものです。誇れる母校を応援してください。

今後、同窓会においても事務局スタッフが技術を学びながら、同窓会ホームページ開設にチャレンジしていきたいと思えます。

(広報委員会担当副会長記)

追記

母校のホームページアドレスを記入しておりますが、アドレスの入力が難しい場合は、インターネットの検索システム(ヤフーなど)を利用して「児玉高校ホームページ」と入力するとアクセスできます。

時の針

発行 児玉高校同窓会
会長 松本 一夫
発行責任者 金井やよひ
事務局 児玉町八幡山
410
県立児玉高校内

ごあいさつ



同窓会会長 松本 一夫

同窓生の皆様、お変わりなくお過ごしのことと推察申し上げます。日頃は会の活動にご協力賜わり誠にありがとうございます。

さて同窓会活動ですが、恒例事業の新年会には、来賓として田島県会議員、学校当局、PTA、後援会の両会長を迎え、毎年一月に実施し、楽しいひとときを過ごしています。親睦旅行では来賓として学校当局を迎え、毎年十一月に実施し、出会いを楽しんでいます。平成十三年は男女共学の埼玉県立児玉高等学校に改称後第一回卒業生が記念となる卒業五十年を迎えました。これを記念して七〇余名

が集まり五月に同期会を開催し、水上温泉にて思い出に花が咲いたとの事でした。途中五〇余名が母校に立ち寄り、懐かしい思い出を楽しみ、母校に記念として地球儀を贈呈されました。

母校では柔道部が連続全国大会に出場するなど各部の活躍が楽しみです。平成十三年に女子バスケット部が二十九年振りに全国大会に出場する快挙を遂げましたが久し振りの出場で大会派遣費用不足となり同窓生の皆様に募金の協力をお願いしましたところ特に市町村役場に奉職されている皆様、本部役員の皆様の多くの方々からご協力をい

ただき、本誌を通じ厚くお礼を申し上げます。

終りに平成十三年は学校創立八〇周年を迎え、記念事業として過去十年の本校の歴史をまとめておく必要から記念誌を編集する事となりました。学校当局、同窓会、PTA、後援会による四団体で十五年三月完成を目指し、第一回会議が十三年七月に開かれました事をお知らせ申し上げます。

例年の行事を実施するとき、会員の皆様方全てに連絡ができませんので、事務局である学校か、最寄りの本部役員に電話で気軽に申し込んで下さい。母校の発展に寄与するうえからも会員皆様方の行事にご参加いただける事が何よりの原動力です。ご支援、ご協力をお願い申し上げます。同窓生各位のご健勝とご発展をご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

ごあいさつ



校長 関田 武彦

四月児玉高校に着任しました。

皆様の母校は、大正十一年に創立し、七十九年目を迎えました。この間卒業生の総数は、今春二万名を超え、多くの皆様が全国各地で幅広く活躍しております。また皆様の後輩の生徒たちは、母校で元気に学んでおります。

同窓会におかれましては、母校の発展のため様々なご援助を賜り心よりお礼申し上げます。母校が創立八十周年を迎える

にあたって、過去十年間の歴史のまとめとして、記念誌を作成することになりました。五月二十一日に母校で行われた同窓会総会におきまして記念事業として刊行費を予算化していただきました。そして、記念誌発行に向け、この度同窓会をはじめ、PTA、後援会、学校の代表者で構成する編集委員会が発足し、記念誌の作成に取り掛かりました。

また、総会当日本校第三回卒業の「三高会」約六十名の皆様が母校を訪れ、体育館において五十周年記念同窓会を開催しました。その折に母校の生徒たちが「世界に向けて大きな夢と希望をもって学習に励んでほしい」との趣旨により、セラミック製の大変立派な地球儀をいただきました。誠にありがとうございました。

皆様の期待する熱い思いに込めて、在校生も様々な分野で活

躍しております。特に柔道部、女子バスケット部は連続して関東大会に出場し、また女子バスケット部は、二十九年振りに全国高校総合体育大会(インターハイ)へ出場を果たしました。多くの皆様からの温かいご支援にお礼申し上げます。先輩たちの残した伝統をしっかりと引き継ぐ努力をしております。

同窓会の更なるご発展を祈念申し上げあいさついたします。

心と感謝

女子バスケット部

監督 根本 靖雄
コーチ 高島 美希

同窓会の皆様、私は児玉に来て六年目に入ります。児玉高校の伝統、歴史のすばらしさをも心に思い大好きな児玉で生活させてもらっています。五年前、高木先生に児玉高校に誘っていただき女子バスケット部をまかせて頂くことになりました。それから年々生徒達の頑張りで一つ一つ着実に成果を上げみごと今年は、埼玉優勝し念願のインターハイに出場することができました。これも児玉の先輩方の応援とその伝統を守らなければいけないという子供達の母校愛の結果であると思います。同窓会の皆様こんな私を見玉高校に暖かくむかえ入れて頂

き本当に感謝しています。私は、高木先生が何十年もかかってくくりあげた女子バスケットの心を引き継ぎ、高校生として何が一番大切なかを常に子供達にわかってもらいたいと思い部活をしています。生徒達は、体育科の先生をはじめとするたくさんの先生方に愛され、また先輩方の伝統のおかげで心と感謝の気持ちを熱く持つバスケット軍団に育ってくれています。毎年、生徒達は入れ替わり新しいチームに代わって行きますが年ごとの思い出は強くだの生徒を見てもすべて私の宝物です。今年は、結果としてインターハイに行くことができたがこれは、同



窓会の暖かく見守ってくれる姿や教え子達のおかげであると感謝の気持ちでいっぱいです。本当にだれになんとお礼を言えばよいのかわからないぐらいすべての人に感謝しています。バスケット部女子は専用の寮を持っています。これも同窓生の阿部接骨院の協力のおかげで十八人の生徒が生活しています。ひら久、児玉銭湯、近所の鈴木さんなど野菜があまればそつと寮においてあったり、暖かい挨拶をかわしてくれたり、さまざまな角度から子供達の教育にたずさわってくれています。また二年前から児玉高校卒の高島先生が女子バスケットのコーチになり母校の教育、部活動に若いパワーをそそぎ生徒の立場に立った指導をしてくれています。このような環境で根本は好きなバスケットができ児玉町の人や、同窓生に見守られながら生活ができ、これからも児玉高校のため、



卒業生のためよりいつそう努力し頑張りたいと思います。
最後に我がねもじー女房、いつも生徒達のめんどろを見てくれて有り難う。一番感謝していると心から皆様に宣言しまして女子バスケット部の報告とさせていただきます。これからも女子バスケット部の活躍を期待して下さい。また、ぜひスーパードレイを見に来て下さい。有り難うございました。

私とバスケットボール

旧教職員 高木 清憲(第八回卒)

時の針十三号発刊、誠におめでとうございます。

事務局より原稿を依頼され、何を書こうかと思案しているうちに締め切り日が間近になってしまいました。

まず、はじめに三十八年間、一度の転勤もなく母校兄玉高校に勤務する事ができたのも多くの同窓生はじめ、その時代の父母、生徒、教職員その他多くの皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

私は、これまでの人生の大部分をバスケットボールに夢中で拘ってきました。中学、高校、大学、社会人とプレイを楽しみ、現役を退いた後は教職員として、また指導者として頑張つて

きました。

「無我夢中」という言葉があります。辞典には「心をうばわれ、無意識的にただひたすら行動をするさま」とあります。人間にとつて最も幸せな状態です。好きな事にのめり込む、欲もなく全身全霊で打ち込む。そういう時こそ、人間は生きていくと、心と体のすみずみまで感じるのではないのでしょうか。

人は無我夢中になれる、好きなことが一つあれば、その目標に向かって自分の意志で積極的

に歩いて行けると思います。退職後は埼玉県バスケットボール協会理事長の仕事をさせていだいております。平成十六年、第五十九回国民体育大会バ

スケルトボール競技少年女子が兄玉町で開催されます。

これも、兄玉高校同窓会関係者はじめ多くの皆様の応援のたまものと心から感謝申し上げます。そして本年八月二日から八月十二日まで、さいたま市さいたまスーパーアリーナで開催されました、第三回男子バスケットボール世界選手権大会に、本部役員として参加できたことはバスケットボールを愛好する者にとつては、ほんとうに嬉しいことであり誇りに思います。

埼玉県バスケットボール協会会長、田島敏包氏(第十七回卒)・埼玉県バスケットボール協会国体事務局長、吉田正治氏(第十九回卒)と一緒に埼玉国体に向け着々と準備をしているところです。又、兄玉中学・兄玉

高校共に関東大会、全国大会に出場出来たことは埼玉国体開催に向け大きな盛り上がり、その活躍が期待されます。終わりに同窓会役員及び同窓の皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(写真は世界選手権大会開会式会場にて)



児玉高校

いま、昔

二の丸城跡の杉並木



現在正門入った付近

旧正門 昭和5～昭和50年



現在 裏門

校舎と体育館



1971年頃

自転車置場



1956年頃 校舎正面付近

自転車置場



1960年頃 理科棟付近

福祉と共に

倉林 敏澄 (高十八回卒)

時の流れは早いもので、あれから三十五年の歳月が過ぎ団塊の世代の私も五十代半ばになりました。近況では、去る五月に初孫が誕生し「優等生」のじいちゃんになろうと、日々努力をしている昨今です。

現在、私は社会福祉の事業に携わっております。

十四年程前になりますが、福祉に題する講演会があり、その会場にてお会いした知人より、社会福祉の業務へのお誘いをいただいたのが、この仕事に携わる機会となりました。

その後、その方の老人福祉施設に於いて事務方より仕事を通して、施設の運営等をご指導頂きまして、平成六年、国(厚生省)のゴールドプランに添って、老人福祉施設の整備に向って着手いたし、現在に至っておる次第です。

社会福祉法人武蔵野福祉会として、四つの事業を行っております。①ケアハウスエコーの丘

(軽費老人ホーム) ②むさしのデ

イサービスセンター(通所介護)

③エコーの丘ホームヘルプサー

ビス(訪問介護) ④むさしの居

宅介護支援サービス(居宅介護

支援)ですが、社会福祉運営を

取り巻く環境は、急速に変化し

ており、開設当時は行政との委

託契約にて運営していましたが、

皆さんもご承知の通り、昨年四

月より介護保険制度が導入され、

社会福祉基礎構造改革など社会

福祉の体制について改革が行わ

れる状況の中、根底から意識を

変え、一層の質の向上を計って

いかなければならないと考えて

おります。

いずれにいたしましても、施

設入居者は、永年社会に多大な

貢献をし今の日本を支えてこら

れた方々です。人それぞれ、人

生観、身体状況等さまざまです

が、私の使命は、入居者及び利

用者の一人一人が毎日を心豊か

に、安心して施設の生活を過していたかどうかと考えております。

今後その使命を果すべく、

職員と共に微力ながら努力し、

福祉に携わる一員として、些少

なりとも、福祉に貢献出来ま

す。様、努めて参りたいと思っ

ております。

同窓会役員・関係者のご尽力

に敬意申し上げます。に会員皆

様のご健勝、ご多幸をお祈り申

し上げます。



児玉高校卒業(第三回生) 五十周年を迎える

倉林 栄市 (高三回卒)

終戦後の教育制度の見直し時、校名を児玉高等学校に改め併せて男女共学となる。私達第三回生は昭和二十六年卒業し、平成



十三年で五十周年を迎え、記念すべき同窓会を五月十二、十三日に水上温泉にて行う。六十八名の参加で盛大でした。

参加者は母校に集合し学校長を始め関係者を交じえて見学会、及記念品(地球儀)贈呈の式を終了し、バス等を利用して懇親会場、水上温泉・松の井ホテルへと急いだ。語り尽せない思い出話、健康話等で花が咲き、再会約し解散となる。

応援の思い出

田島 優子(高二十七回卒)

女子バスケットボールチームのインターハイ出場おめでとうございます。選手の皆さんは遠く熊本のカンファで精一杯御活躍下さいます様お祈り申し上げます。私の在学中、サッカー部は全盛時代でした。やはり夏のインターハイ「佐賀総体」出場が決まり、同級生のお父さんが、サッカー部の父母会の会長をされ

ていて、声を掛けられ、父母の方々、OB一名生徒二名の大応援団がマイクロバス一台で高速とフェリーで十数時間掛けて佐賀入りしました。

♪はーるばる来たぜ佐賀総体 高校生の私でさえキツイ旅だったのですから、選手の父母の方達に「大変ですね」と云うと、皆さん口を揃えて、「子供のお陰でいーろんな所へ行けます」と、嬉しそうに笑った。

確かに、サッカー部は全国規模の大会の常連だったので、いーろんな所へ行くには行くんでしようが物見遊山に行く訳ではないので、宿と試合会場を行ったり来たりするだけで、本当に応援だけの毎日でした。

また、準決勝、決勝戦の前夜の夕食の時には、根岸君のお父さんが詩吟の「鞭声肅々……」と唸って、皆で気合を入れて必勝を祈りました。

父母の皆さんは、ただ応援するためだけに、何日も家を空け、仕事を休み、あの炎天下声をか

らして応援しました。同行した私達生徒を自分の子供の様にかわいがって下さって、まったくあのパワーには頭が下がりました。

それから、もう一つ頭の下がる事がありました。

佐賀在住の兄高OBの方が奥様と二人のお子さんを連れ、毎日、差し入れを持って応援に駆けつけて下さった事です。

特にサッカー部と連がりがある訳でなく、卒業生として母校の活躍をこうやって喜んで下さるOBが佐賀にいーろんな事、二十数年たった今でも、強く心に残って、現在も、お元気でいらっしやるかと、時に想い出すこともあります。

試合の結果は、惜しくも準優勝に終わりましたが、サッカー部より一足先に帰見した私達は、祝賀パレードで選手を迎え、町を上げて、選手を賛えました。

私は、サッカー部の同級生とは親交はありましたが、私自身がああ、厳しい永尾コーチの練

習に耐えた訳ではもちろんないのに、応援していると、自分も一緒に苦労して勝った様な一体感を味わうことが出来るのです。それは私一人ではなく、在校生卒業生、町民へと輪を広げ、皆の気持ちを一つにしたのでした。

今回の女子バスケット部のインターハイ出場も、又、新しい一体感を在校生の皆さんに与えてくれることを願っています。なぜなら、共有出来る喜びを持てる集団は、幸福な集団だからです。



一B会について

立花 勲(十八回卒)

昭和三十八年四月入学の私たち一年B組は校長室のとなりの教室で大声でさわいでよく校長におこられた。

そんな私たちが一B会をつくり集まり始めたのは、卒業後十年ほど経ってからだった。

ときの文集「明月」を復刻し、なつかしく語りあった。

何年かに一回のあつまりで、



近況を語りあう、そんななんでもないようなことが、今いちばん大切なことのようにも思う。

ここのところ少しのごぶさただが、近いうちにまた一B会は開かれるであろう楽しいひとときはやっぱり想い出話だろうか。

本部役員と理事

先般の総会において、新役員の選任が承認されましたので、ご紹介いたします。長い間、ご尽力をいただきました前役員の皆様に改めまして御礼申し上げます。

会長 松本 一夫
副会長 根岸 義守

幹事 田島 勇八、瀬山 尚志
高木 清憲、立花 勲
高柳 和夫、川上 守之
石井 敏郎、高島 美希

監査役 倉林 栄市、遠藤 武美
相談役 吉川 幸男、林 喜一
梅沢 仁

顧問 田島 敏包

各委員会の理事の紹介

《名簿作成・広報委員会》

会員名簿の作成 記念事業の計画及び活動 事業に関する広報活動等
担当副会長 瀬山 尚志

委員長 金井やよひ
副委員長 山崎 康雄

幹事 浅見 透
委員 倉林 栄市、伊藤 ふさ
木村 葉子、熊倉 清次
中林 都明、武内 順子
寺崎 一江、金井 保夫
木村 史雄、荒井 一夫
鈴木 政弘、落合 崇志
渋谷 正敏、奥原 好彦
飯野 晴美、桜井 直子
松井 和子、森田 菊江
木村多桂登美

《育英・母校ルネサンス委員会》

在学生の勉学 クラブ活動に対する援助 母校の活性化に協力するための活動
担当副会長 田島 勇八、沖村 良子委員長
岩上 高男

委員 新井 初枝、福島 慎治
石原 秀一、吉田 宗平
卜部 義子、堀越 久夫
野沢 公代、沢本美喜男
長谷川志野夫、根岸 勝利
長谷川昌則、出牛 幸平
秋間喜代子、脊山 知教
石坂 清、阪本 和絵
石川 克彦、秋山 和広
角谷 清子、遠藤 武美
今泉 好美

《親睦・組織委員会》

各種会合 旅行会等 会員の親睦を深める活動及び会の円滑な運営のため組織

の整備を行う
担当副会長 久保佐代子

委員長 吉田 豊彦
委員 田島鎖智子、斉藤 定一
倉林 秀美、小林 修
中西 昭子、峰岸 栄
小倉 正貴、黒沢 洋子
芳野 勇、安斉 彰
田島 優子、高木 弘之
岩丸 彰男、細田 章
小林太美江

編集後記

皆様、元気でご活躍の事と思えます。

新世紀第一回(時の針、十三号)をお届け致します。

今、会報は初の母校のカラー写真、ホームページを取り入れ、さらに活躍する同窓生、同期会、クラブ活動等で編集いたしました。

この「時の針」が少しでもなつかしい青春時代を思い出し、皆様の心に残れば幸いです。

又、今回原稿にご協力いただきました方々に心より感謝申し上げます。

同窓会

松井 和子(高十九回卒)

「青空に高くそびゆる白亜の森」の校歌に迎えられ入学したのが、昭和三十九年ちようど東京オリンピックの年でした。あこがれの高校生活、部活、友達、受験と、それぞれの青春を過ごした時です。自転車が唯一の乗物だったあの頃遠くから来る友達に逢えたのは、とてもめずらしく心ときめいて、話をした記憶があります。

あれから三十三年、皆立派な社会人となって活躍していますが、私達の同級生は、四年ごとのオリンピックに合わせて同窓会を開催して昨年で四回目を迎えました。いつも多勢の出席でにぎやかに、お互いの若さと活力を確かめ合い、思い出話や自慢話に花を咲かせて時の経つのも忘れるひとときです。恩師の方々にもご出席頂いておりますが、八十余才になられてもまだまだお元気で私達一人一人の名前を覚えていて下さり、お声をかけて頂いた時など、涙が出る思いです。思い出の写真集は、四冊にもなりました。すてきな装丁で、今では、大切な宝物となっています。

仕事、家庭と日頃責任ある立場にいる年代の今、「元気でまた逢いましょう。」の再会の約束は、明日へのエネルギー源になることでしょ

う。この会を催して下さる地元の、三九会の皆様のご尽力には、心より感謝しております。

次回の同窓会で皆様とお逢い出来ることを楽しみにしています。



親睦委員会の活動について

親睦委員長 吉田 豊彦(高十六回卒)

同窓会会員の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素

は母校の親睦活動につきまして協力承り誠にありがとうございます。

今回は親睦委員会の活動内容と近況報告をさせていただきます。私達の委員会は、主に会員の親睦を深める為の活動を行っています。年間の行事として、五月に総会、十一月に親睦旅行、十二月に忘年会、そして一月に新年会、この四大イベントの企画、運営をさせていただいております。定例総会は毎年五月ごろ母校で行いますので総会、また終了後の懇親会の準備等を行っております。十一月の親睦旅行では近年は日帰り旅行を主体としております。平成十二年度は日光方面に行きました。三五〇年ぶりに初公開された、徳川三代將軍家光公が眠る大猶院をメインにその地の名所旧跡を見学してきました。その前の年には横浜方面に出かけ中華街を中心に、行きに三溪園、帰りに泉岳寺等を見学してきました。また新年会は毎年一月の最後の土曜日に埼玉グランドホテル本庄におきまして開催しています。開会のことばにはじまり、会長、来賓の挨拶の後、全員で校歌を歌います。歓談の後カラオケタイム、お年玉抽選会等、出席者の皆様に楽しんで頂

ますよう、いろいろと計画をしております。また、挨拶のなかでも校長先生のお話は、私達卒業後とかく疎遠になりがちな、母校の近況報告また後輩達の活躍状況等、大変興味あるお話をさせて頂いております。以上のような事を、私達親睦委員会は活動内容として行っていますが、どのイベントでも参加は自由ですので、ぜひ同窓生をお誘いのうえ、参加して頂きます様、よろしくお願い申し上げます。

